第１回北海道ブロック交流試合
Development Center Interconference 特別ルール及び確認事項

北海道バスケットボール協会　強化育成委員会

１．参加地区数

男女各１６チームで開催予定。

※不参加地区がある場合、交流戦の試合形式は北海道バスケットボール協会が決定する。

２．出場選手数について

○各チームは全ての交流戦で、全ての登録選手を出場させなければならない。

※ただし、ケガ・体調不良の場合にはその限りではない。

３．選手の出場クォーターについて

○ＤＣの交流戦であることから、１５名登録のチームについては、１Ｑ～３Ｑに交代なしで、１５名（全員８分の出場時間を保障）の選手を出場させる。

○登録選手が１５名に満たないチームの３Ｑについては、１・２Ｑに出場した選手で補充をする。

※ＤＣの趣旨を理解し、各選手ができるだけプレータイムをシェアできるよう努めること。

※選手が２Ｑに出場している（コートに出てプレーをした）ことが判った時点でゲームを止め、当該選手を交代させる。

※延長戦は行わない。なお、１日目のブロック交流戦において勝敗の差が並んだ場合、得失点差で順位を決定するものとする。それでも決まらない場合は、総得点数で順位を決定する。

４．所属同一チームからの選手出場について(オンザコート４ルール)

○同一チームの選手が５人同時にゲームに出場することは、他に選手がいない場合を除いて認めない。（ＤＣの趣旨が普及と育成を目的とするものであるため）

※但し、地区における登録チーム数が１０チーム未満の地区については、このルールは適用されないものとする。

５．マンツーマン推進について

○「ＪＢＡより提案されているマンツーマンディフェンスの基準規則に則る」ことを各チーム再確認し、選手に伝え、ベンチで指揮をとる者が率先してその指導・指揮を心がけることとする。

○マンツーマンコミッショナーの設置は行わない。

６．インテグリティについて（ガイドラインより）

ＪＢＡでは、インテグリティの精神（誠実さ、真摯さ、高潔さ）にのっとり、「クリーンバスケット、クリーン・ザ・ゲーム」を推進していきたいと考えています。これは、ゲームに関わるプレーヤー、コーチ、レフェリー全ての協力でゲームの価値を高めようとする取り組みであり、ゲームを尊重する精神「リスペクト・フォー・ザ・ゲーム」にそったものであります。

バスケットボールのゲームは、ゲームに関わる関係者のみならず、観客の存在も欠かすことができません。プレーヤー、コーチ、レフェリー、観客も含めてゲームの価値を高める努力をすることが必要です。そして、そのためにはコーチの振る舞い（行動や行為）も非常に重要になってきます。コーチの振る舞いは、ゲームに関わる関係者（プレーヤー、レフェリー）に直接影響があるだけでなく、ゲームを観ている観客の方々にとっても大きな影響を与えます。

そこで、コーチの振る舞いについてある一定の基準を設けてテクニカルファウルの対象とし、ゲームの価値を下げない取り組みを推進することとしました。

【テクニカルファウルの対象となる振る舞い（行動・行為）】

１．コーチのプレーヤーに対する暴言

（１）人格、人権、存在を否定する言葉

〈具体例〉最低、クズ、きもい、邪魔、出ていけ、帰れ、死ね、てめえ、この野郎、貴様

（２）自尊心を傷つける、能力を否定する言葉

〈具体例〉役立たず、下手くそ、アホ、バカ

（３）身体的な特徴をけなす言葉

〈具体例〉チビ、デブ

（４）恐怖感を与える言葉

〈具体例〉殴るぞ、しばくぞ、ぶっとばすぞ、帰りたいの？、試合出たくないの？

２．コーチの暴力的（攻撃的・虐待的含む）振る舞い（行動・行為）

（１）殴る・蹴るなどを連想させる行為

（２）プレーヤーと近接（顔の目の前、腕１本分より近い距離）して高圧的威圧的に指導する行為

（３）「おい！」「こら！」と大声でプレーヤーを高圧的威嚇的に指導する行為

（４）継続的、かつ、度を超えた大声でプレーヤーを指導する行為、いわゆる怒鳴りつける行為

（５）物に当たる、投げる、床を蹴るなどの行為

３．第三者が不快と感じる振る舞い（行動・行為）

（１）不潔な服装、裸足やスリッパでの指導